



令和6年3月1日号

令和5年度 学校評価について

2月22日（木）に学校運営協議会を開催しました。

学校評価については、12月に実施しました生徒・保護者のみなさんのアンケート結果や学校の自己評価をもとに、年度当初に設定した目標を達成できたかどうかを示し、それについて各委員の皆さんからご意見をいただきとりまとめましたので、ご報告させていただきます。

| 項目 | 自己評価 | 学校等関係者評価 |
|------------|---|---|
| 成果 (強み) | <ul style="list-style-type: none"> ・児童からは「自分や友だちを大切にしている」が97.2%、「仲間外れやいじめをしなかった」が94.6%、「身の危険に対して対応の仕方がわかっている」が94.2%の回答であった。保護者からも「命を大切にし、自分や相手を大切に作る気持ちが育っている」が97.1%、「お子さんは楽しく学校生活を送っている」が96.9%となった。自分や友だちを大切にし、楽しい学校生活を送れているようである。 | <p>○例年低い「進んで読書をしている」については、幼稚園・保育所・こども園からの読み聞かせの充実がひとつの改善策になるのではないかと。小学校では図書管理のバーコード管理を導入することで6年生の児童の読書活動が盛んとなった。司書さんとも連携して子どもたちが読みたい本や教育的に読ませたい本を多く準備したい。高学年児童による読み聞かせなど本に親しむ体験や啓発にも取り組む必要がある</p> |
| 課題 (弱み) | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者からは「お子さんは進んで読書している」が50.8%、「家庭では、お子さんを注意することより褒めることが多い」が57.2%と達成度が低い。それ以外にもあいさつや家庭学習における回答が低くなった。児童からは「授業で自分の意見を発表することができた」が62.8%、「先生たちとよく話をする」が69.2%と他と比べて低い項目である。さらにあいさつや家庭での学校の話や学習が低い回答になった。 | <p>○学校へ来ても教室には入れない児童への別室対応として、コネクトサポーターが配置され、これまで、保健室が主に別室対応を担ってきたが、専属として対応できる仕組みが作られつつある。</p> <p>○今年度よりCSが設置され、活動を開始したが、今後、CSの活動やボランティア活動を具現化していかなければならない。保護者（PTA）や地域との協働について、学校運営協議会の委員だけでなく、多くの関係者と熟議を重ねることで、活動を充実させていかなければならない。</p> |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業や生活の中で、思いやりの心や自他を大切にする心を育てる教育をさらに充実させていく。 ・指導方法の工夫や授業改善を通して学力のさらなる向上を図る。 ・まず職員が声を掛けあいさつを推奨していくとともに、地域や家庭と連携した取り組みを進める。 ・家庭学習と読書の習慣化に向け、家庭と連携して取り組み、学力の向上につなげていきたい。 | <p>○コロナウイルス感染症だけでなく熱中症やインフルエンザなどさまざまな対策が必要になり、以前のような活動や学校行事などができない場面もあった。しかし、工夫をしながら保護者・地域の協力を得たりすることで、学校運営が行うことができた。</p> |

| | | |
|--------------|---|--|
| 授業の充実 | <p>①「授業はよく分かる」児童 93.3%(昨年度 92%)であった。しかし、保護者の評価は昨年度と同じ 88.0%である。</p> <p>②全国学力・学習状況調査の全教科平均正答率は 67.4%であったが、教科別では、国語 72.0%、算数 62.7%となり、算数に課題が残る。</p> <p>③家庭学習習慣の定着は、児童 83.2%(昨年度 83%)、保護者 75.0%(昨年度 75%)であった。「学習の手引き」の活用や情報端末の効果的な活用など、家庭と連携した取り組みが必要である。</p> | <p>○93.3%の児童が「授業がよく分かる」と答えているが、分からないと答える児童が 6.4%いることを念頭に置いて、指導方法の工夫、授業改善にとりこんでいく必要がある。</p> <p>○読書については、家庭と連携して、読書習慣をつけていくための啓発に取り組む必要がある。</p> <p>○算数についての苦手分野の克服が必要である。</p> |
| なかまづくり | <p>①保護者からは「思いやりの心を育てている」94.0%(昨年度 95%)、「楽しく学校生活を送っている」96.9%(昨年度 95%)であった。児童からは「なかまはずれやいじめをしない」94.6%(昨年度 91%)、「自分や友だちを大切にしている」97.2%(昨年度 98%)であった。</p> <p>②学級満足度尺度の全クラス平均が 1 回目 56.2%(昨年度 53.5%)で、2 回目が 66.4%(昨年度 63.3%)となり 70%には至らなかった。最大値 93%、最小値 39%となり、52%の差がある。</p> <p>③レインボー班活動は、定期的を実施することができた。児童は、「レインボー班の活動は楽しい」と 84.3%(昨年度 85%)が回答している。</p> | <p>○人権教育総合推進地域事業で培った取組を発展継続し、いじめ根絶に向けて、あらゆる場で、思いやりの心や譲り合いの精神を育ててほしい。</p> <p>○「楽しく学校生活を送っている」という項目では 96.9%に目を向けがちだが、4.1%の児童が楽しいと思えない学校生活を送っているという事を忘れてはならない。</p> <p>○縦割り班による活動も再開し始めているが、縦割り班活動の充実に向けて検討を必要とする。</p> |
| 開かれた学校づくりの推進 | <p>①「積極的に情報を提供している」は 90.9%(昨年度 88%)となった。ホームページの総訪問者数が 42,000 人を突破した。</p> <p>②4 回の授業参観が実施できた。保護者アンケートでは、「学校は保護者や地域に、開放的な雰囲気」が 89.7%(昨年度 81%)となった。今後も、子ども・保護者・地域に子どもたちの頑張る姿を発信していきたい。</p> | <p>○書面だけでなく必要な場合は絆メール、ホームページも併用しながら情報発信したり、学校・学年等のたよりやホームページ等で、子どもたちの活動の様子を知ることができた。</p> <p>○学校行事や授業公開等においては、会場や駐車場等の問題で、運営において、規制が必要な場合もある。</p> |
| あいさつ運動の展開 | <p>①「子どもたちは自分から進んで挨拶をしている」は児童が 80.4%(昨年度 86%)保護者が 72.9%(昨年度 73%)と、保護者の回答が目標を下回った。</p> <p>②児童会による呼びかけ、登校指導時のあいさつ運動を行っているが、全体的な意識を高めるには至っていない。</p> | <p>○児童会によるあいさつ運動は、その効果が期待できる。周りの大人が声をかけたり、表情の暗い子に話しかけたりすることも子どもを見守る事になり、その日の子どもの顔を見て声をかけていきたい。</p> |